

めてまいります。

また、永年小平町を支えてこられた「高齢者は功労者」でありますので、精神・身体両面の健康維持に欠かせない移動交通手段をより便利に使いやすくするために、現行のデマンドバスに加え、ニーズを踏まえた臨時便の運行や新しい公共交通の体系づくりの検討など、日常の移動手段の拡充を進めてまいります。

次に医療についてであります。

全道的に新型コロナウイルス感染が急拡大しており、町内においても感染者が急増しているほか、家庭内感染者やそれに伴う濃厚接触者も大変多くなっています。

こうした中、当町におきましても接種を希望する町民に対し、随時オミクロン対応ワクチンの接種を行い、感染拡大防止に向け取り組んでまいります。

次に生活環境についてであります。

公営住宅の整備につきましては、極寒・豪雪・強風の我が町では住まいの安心は極めて重大であり、国の補助採択は極めて厳しい中ではあります。必要の高い第二団地をはじめとして令和5年度から順次、古くなった公営住宅の建て替えに取り組んでまいります。

また、各種災害時に対応できる道路網の整備については、越波・土砂災害等の対策として、長年の要望に

より事業化された花岡・大椋間の道路の嵩上げ工事である「国道232号小平防災」の整備促進をはじめ、「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」に基づいた災害対策・老朽化対策・デジタル化等の推進について、今後とも要望してまいります。

なお、老朽化・耐震化対策として、平成30年度より工事を進めてきました「国道232号高砂橋」の完成が令和5年度を予定しており、日本海側の物流の核として供用開始される予定であります。

次に公共施設の整備についてであります。

ゆつたりかん、給食センター、消防署を始め、老朽化した施設の改築につきましましては、現状を掌握したうえで「第6次小平町総合計画」を柱に、人口減少による効率性や財政の健全化を念頭に執行してまいりたいと考えております。

最後に職員の資質向上についてであります。

今まで以上に効率的な行政を推進するためには職員の資質の向上が求められ、「求められる職員像」を実現するためには、職員それぞれが積極的に自己啓発に取り組み、職員としての能力・意識及び業務に関する能力を身に付けることが必要です。

「求められる職員像」を目指すため

にはどうすれば良いか、職員一人ひとりが責任を持って考え、主体的に行動することが重要で、職員自ら、常に学ぶ意欲と問題意識を持って仕事に取り組む姿勢を持ち、相互に連携協力ができる組織風土を創ってまいります。

我が国の抱える少子・高齢化問題は深刻であり、日本国人口は減少に転じ、当町の人口も就任当時の3千717人から本年10月末で2千875人と、この12年間で842人減少しており、人口減少に歯止めをかけるには様々な政策が必要と考えます。子育て環境や高齢者の配慮を充実

させることにより、町民生活の満足度を高め、地方回帰の機運に沿う町づくりを目指すためには、地方においても最先端のデジタル技術を活用し、地域課題の解決を目指していかなくてはなりません。

地域の豊かさをそのままに利便性と魅力を備えた、国の「デジタル田園都市国家構想」を実現するため、今年3月に完成した情報通信網・ブロードバンドやAIなどを活用し、「高齢者の見守り」や「血圧・心拍などの健康管理」、「タブレット等を使用した健康管理の助言」のほか、「災害情報」や「緊急情報」などデ

ジタル社会構築の時代から遅れをとらないよう各職員が知恵を絞り・出し合い町民の声をしっかり聴いて、

魅力あふれる新たな地域づくりを実践していかねばなりません。

これまでの12年間の経験を活かし、財政健全化とともに人口減少を見据え、人も産業も引き継いでいく仕組みを確立するため職員とともに英知を結集し、粉骨砕身町政運営に取り組んでまいります。

終わりに、今後、町政運営を担うにあたり、考え方を申し述べさせていただきます。町民皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。4期目就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。



11月4日に行われた小平町長選挙当選証書付与式
関町長へ長山委員長より当選証書が付与されました。